

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	未来花 平野			
○保護者評価実施期間	令和7年9月1日		～	令和7年9月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23(20世帯)	(回答者数)	12世帯
○従業者評価実施期間	令和7年10月29日		～	令和7年11月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発語がない利用者の受け入れとその人数が多い。	訓練士（言語聴覚士）を常勤配置している。 絵カードやその他にも構造化を行い、利用者が理解しやすい環境を整えている。	言語聴覚士のみならず従事者の全員が同じ支援ができるよう取り組む。
2	重度の判定を受けている利用者や軽度の身体障害児の受け入れを行っている。	小さいものや異物を口へ運ぶ場合があるので危険な物がないかチェックする。 軽度の身体障害児へは歩行など必要に応じて介助を行い、転倒防止等を防ぐ。	どちらの利用者に対しても手は放しても目は離さない。 その場を離れる時には従事者同士が声を掛け合う。
3	強度行動障害の判定をされている利用者の受け入れとその人数が多い。	他害や自傷行為を行う利用者も多いため細心の注意を払う。 言動や行動が不安定な場合には目を離さない。	パニックを起こしかけている時に切り替えるような行動を示したり、1人になれる部屋へ誘導し、他の利用者へ危害が及ばないようにする。

	事業所の弱み（※）と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	発語がない利用者が多く、会話自体が少ない。	訓練士（言語聴覚士）を配置していることにより、発語がない利用者の契約が増えていることが要因。	言語を必要としないゲームなどを活用し、発語がない利用者同士でもコミュニケーションが図れるような取り組みを行う。
2	軽度の利用者が少なく、高度な会話や制作などが困難。	訓練士（言語聴覚士）を配置していることにより、重度の判定を受けている利用者の契約が増えていることが要因。	会話成立者の利用があった場合にできることの差が激しく、全体でできるプログラムの構築をしていく。
3	歩行や立位ができない利用者の受け入れが難しい。	現在、軽度の身体障害児の受け入れは出来ているが駐車場から玄関までに階段があり、車椅子での利用が困難。	現状では車椅子での利用者は受け入れができない状態である。